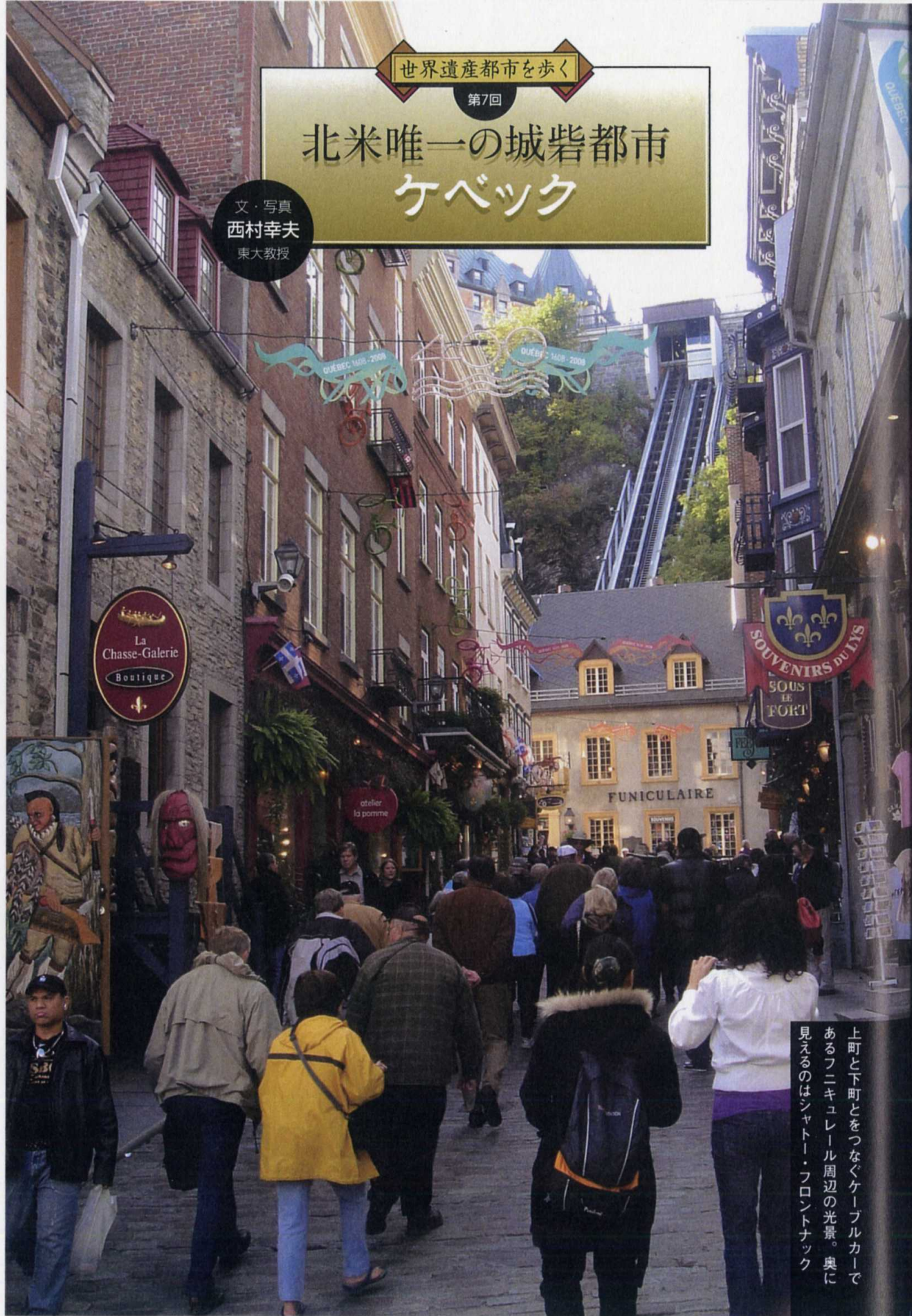


世界遺産都市を歩く

第7回

# 北米唯一の城砦都市 ケベック

文・写真  
西村幸夫  
東大教授



上町と下町とをつなぐケーブルカーで  
あるフニキュレル周辺の光景。奥に  
見えるのはシャトー・フロントナック





写真2 テラス・デュフランからのセントローレンス川の眺め

ス川に向かって突き出た大地の東端にケベックのまちが立地しているからである。おおかたは幅員の広い幹線であるグラントレ通りを東進して、堂々たるサン・ルイ門をくぐってまちへ入るだろう。その中世風の門の風景(写真1)にそれこそ「北米唯一の」城砦都市にきたことを実感するに違いない。

ところがどうか。この門は1878年に建設されたものである。これは何を意味するか。これはちようどウィーンが市壁を取り壊し有名な環状道路であるリンクシュトラッセを建設中の時期である。つまり西洋都市の近代化の中で市壁が邪魔者扱いされるようになり、至る所でその取り壊しが行われている時代に、なんとケベックは新たに堂々たる市門を作り替えたのである。この場所には1694年に最初の門が出来て以来の歴史がある。

その気になってよく見ると、現在のサン・ルイ門は幅が広く、閉ざすべき扉もなく、とても防衛に役立つという代物ではない。そう

ではなくて、外部者を迎え入れるに十分な偉容と開放性を持った門なのである。では、なぜこの時期に門を撤去するのではなく、逆に新設するということが起きたのか。

\*\*\*\*\*

1867年にカナダは英連邦の一員として自治権を獲得している。すでにアメリカの南北戦争も数年前に終わっており、軍事的脅威から市壁を必要とする時代は終わっていた。商業活動の上からも、馬車の通行上も市壁や門はやっかいものと見なされるようになり、ケベックでも1870年代に入ると市壁を取り壊して道路を貫通させる事業があちこちで進められるようになる。1871年には古いサン・ルイ門も壊されてしまった。これに異を唱えたのが1872年にカナダ総督に就任したフレデリック・デュフラン男爵だった。彼は遺跡となった市壁にロマンを感じ、これを保存し、周囲を公園にするというプランを練り上げ、これを都市美化計画として実行した。

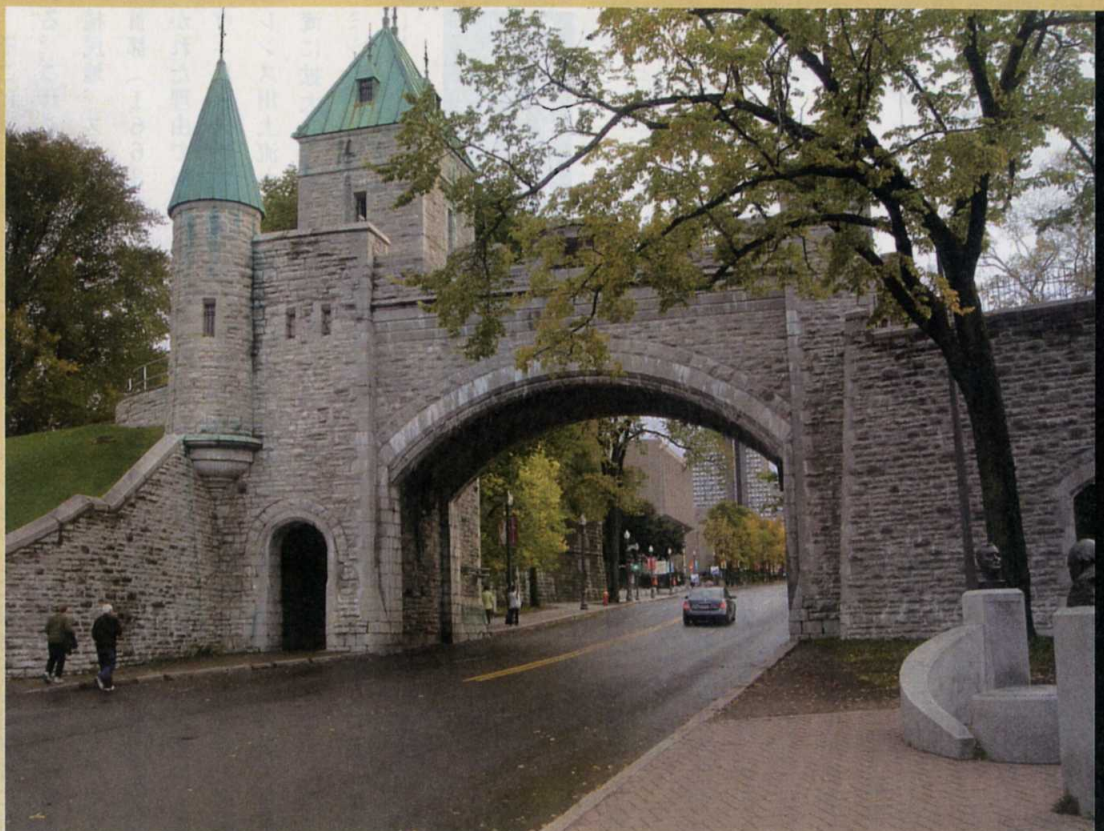


写真1 ケベックのメインゲート、サン・ルイ門(1878)。旧市街の内側から門越しに外の東ランダル通りを見ている

\*\*\*\*\*

ケベックを語る際には決まって「北米で唯一の」あるいは「北米で最初の(少なくとも最初のうちのひとつの)」という枕詞がついてまわる。いわく、北米で最初のコマージュ・ストリートを持つ都市、北米で最初のマーケット広場のあるまち、北米で最初のフランス植民地(ニューフランス)の首都、北米で唯一市壁をほとんど完全な形で残している都市、などなど。

2008年に建都400周年を盛大に祝ったケベックは、たしかにこれらの形容詞にふさわしい歴史の風景を誇っている。イギリスの文豪、チャールズ・ディケンズは1842年に彼の言うところの「アメリカ大陸のジブラルタル」を訪れている。この時のケベックの様子を若き作家はこう書き記している。

「目も眩むような高台、いわば空中に吊り下がっている城塞、絵のように美しい急勾配の通り、威圧するようなアーチ門、それに、通りの至る所で目に飛び込んでくるすばらしい眺め——は、ほかに比すべきものが

がない。

そこは、記憶から消えてしまったり、ほかの多くの場所に紛れてしまったり、旅した人が思い起こすあまたの光景のなかで、一瞬たりともほかの場所と間違えられてしまうことなど決してない場所である。」(C・ディケンズ著、伊藤弘之他訳『アメリカ紀行(下)』岩波文庫、61頁)

ケベックの旧市街に陸上からアプローチするものは必ず市街の西側から市門をくぐって市街地に入ることになる。西から東にセントローレン

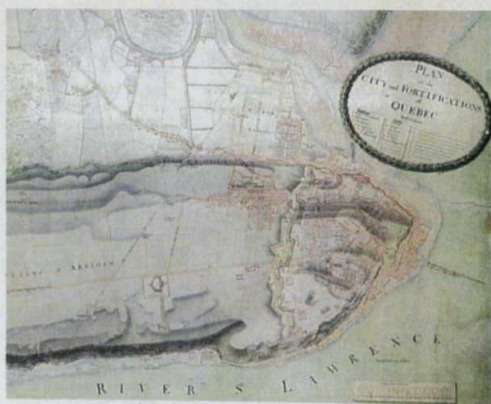


図1 1808年のケベック図。ケベックが西から東に延びた舌状台地の先端に位置しているのがよく分かる



写真3 市壁の外側の公園、奥にサン・ルイ門が見える



その一環として再興されたのが現在のサン・ルイ門なのである。

三方を絶壁に守られたケベックのまちは西側の守りを厚くすれば万全の難攻不落の城となる。したがって、1690年から5度もフランス軍によって作り替えられてきた市壁こそケベック防衛の歴史の象徴だといえることができる。いまは廃墟となつてはいるものの、ここにこそケベックの命がかけてきたのである。デュフラン総督はこの市壁を守るべき都市美を見いだしたのである。

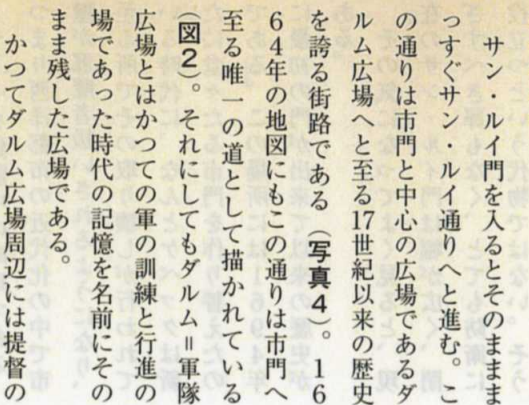
写真4 サン・ルイ通りの風景。この道を奥に行くとダルム広場に出る



こうして北米唯一の城郭都市は明確な意図を持って保存された。現在、総督の名前は、セントローレンス川に面して670mもの長さの爽快な眺望デッキの名称「テラス・デュフラン」として残されている(写真2)。

これは1879年、デュフラン提督の命によって建設された木製テラスである。市壁の周辺は現在は、内外ともに公園となつており(写真3)、市壁の上は眺望の良い散歩道になっている。

写真5 ケベックを象徴するホテル、シャトー・フロントナックをテラス・デュフラン側から見る。右手にセントローレンス川が広がっている



かつてダルム広場周辺には提督の館やその他の軍事施設が集中していた。そうした敷地のひとつとしてかつてシャトー・サン・ルイのちにフォート・ルイスと呼ばれる砦があつた場所に、今日ケベックの象徴となつているホテル、シャトー・フロントナックが建つている(写真5)。

1890年、カナダ太平洋鉄道は国土を横断して豪華ホテル・チェーンを造ることを決断し、その第一弾としてこの巨大ホテルを建設したのである。最初のウイングが完成したので1893年、中央部分に周囲を睥

睨するタワーが完成したのが1924年だった。フランス・ロワール川沿いのシャトーとスコットランドの城館のデザインを混濁させたような印象的なシルエットは、まさしく英仏融合の象徴でもある。

しかし、一都市の象徴が民間ホテルであるところがいかにも北米らしいといえはいる。なお、このシャトー・フロントナックをはじめとしてケベックの主要なタワーは川に正面を向けて建っている。したがって、その姿を表から見るとは、本当は、船上の人とならなければならぬのである。

シャトー・フロントナックの足もとにひろがるのが、眺望デッキのテラス・デュフランである。ここに来てセントローレンス川を眼下にする、はじめて、このまちが軍事上の要塞であることに得心がいく(写真6)。この地点でセントローレンス川は川幅が約1kmと急に狭まり、ここに要塞を築けば、川を上る船はすべて砲弾の射程距離に入ることになる。つまりここから上流のセントローレンス川の流域の物流をすべて支

配することができるのだ。

そこには五大湖もすべて含まれる。これこそケベックにフランス植民地、ヌーヴェル・フランスの首都(1663〜1759)が置かれた理由である。その後、ヌーヴェル・フランス領はセントローレンス川上流からミシシピ川上流に拡大し、そこから川を下り、ミシシピ川の広大な範囲を領土に加えたのである。

図2 1664年のケベックの地図。ダルム広場からサン・ルイ門へ向かうサン・ルイ通りの幹線が描かれている(出典:参考文献161頁)

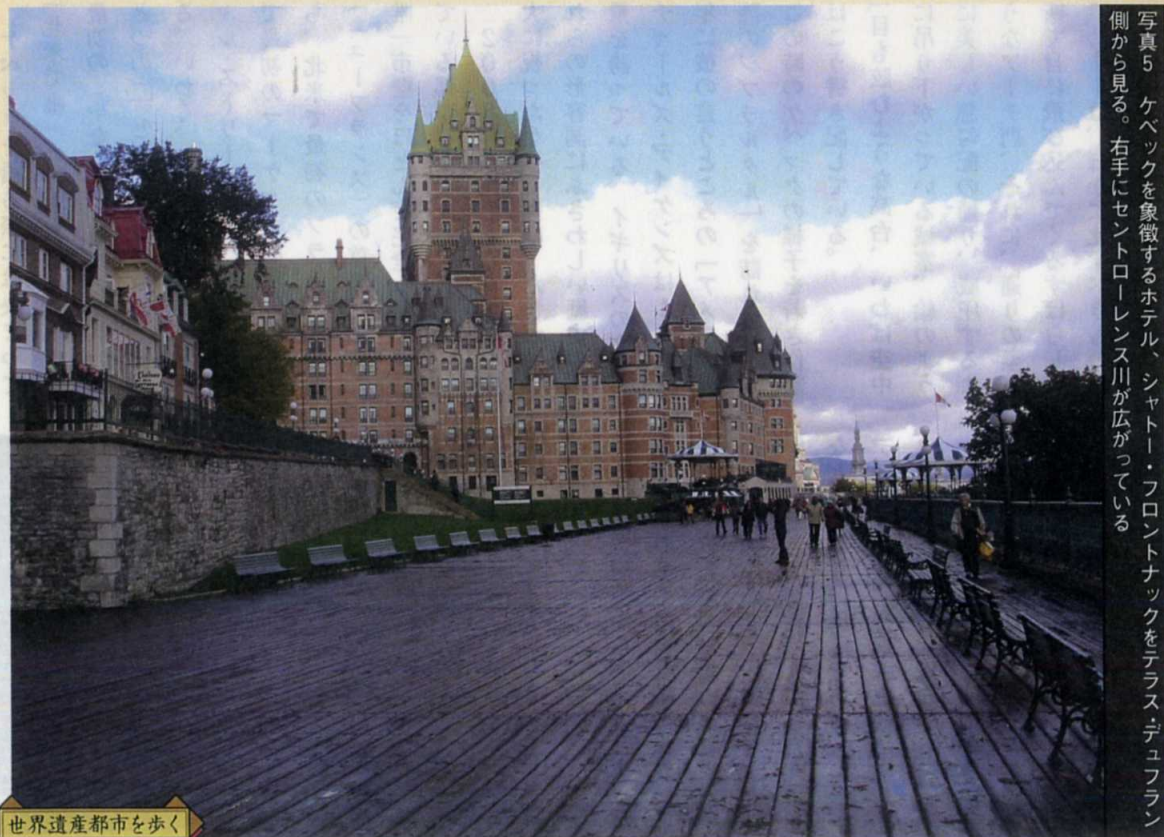


もちろんこうした事態は、ボストンを中心に東海岸の沿岸部に封じ込められた英国植民地には耐え難いものだった。これがケベックを巡る英仏の争奪戦の原因である。抗争は1759年の英国軍によるケベック陥落によって終焉を迎えるが、英国軍は都市民の話す言葉まで奪うことはできなかった。フランス語はその後現在に至るまでケベックでは圧倒的に優勢な公用語なのである。

\*\*\*

ケベックのまちはここで終わつたわけではない。ここまでが上町(haute-ville, upper town)で、ここから階段を下りたところになつたく雰囲気異なる下町(basse-ville, lower town)が広がっている。丘の上の堂々たる軍事行政都市と川縁の建て込んだ港湾商業都市、このドラマチックな対比がケベックのおもしろさなのである。

じつは、ケベックのまちはこの下町部分に1608年7月3日に探検家サミュエル・ド・シャンブ



世界遺産都市を歩く



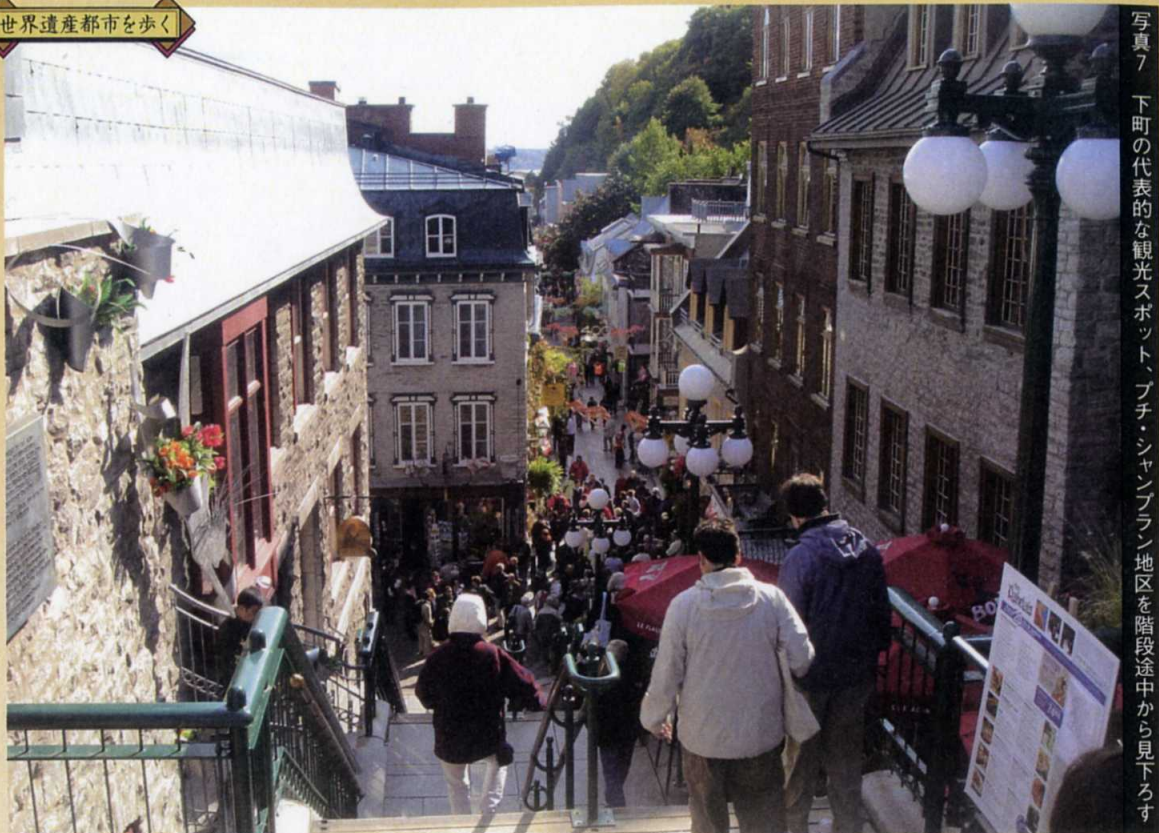


写真7 下町の代表的な観光スポット、プチ・シャンプラン地区を階段途中から見下ろす

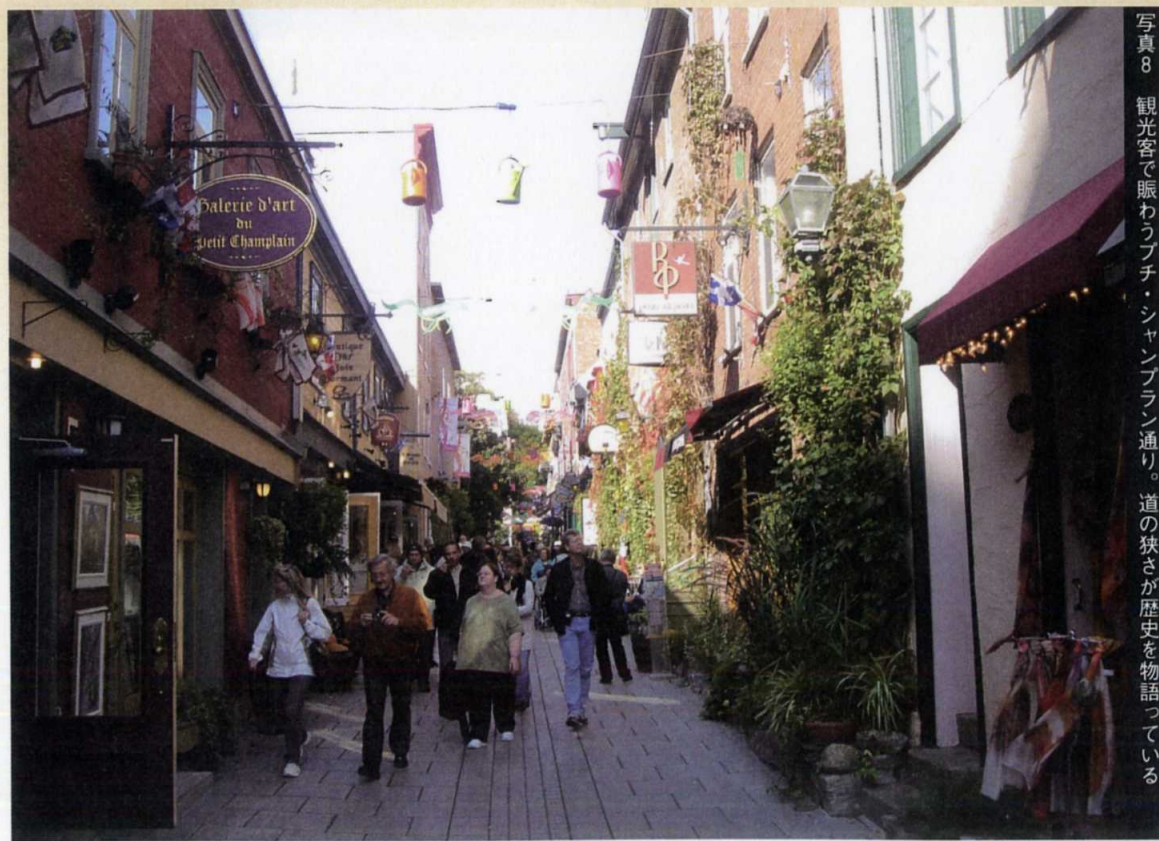


写真8 観光客で賑わうプチ・シャンプラン通り。道の狭さが歴史を物語っている

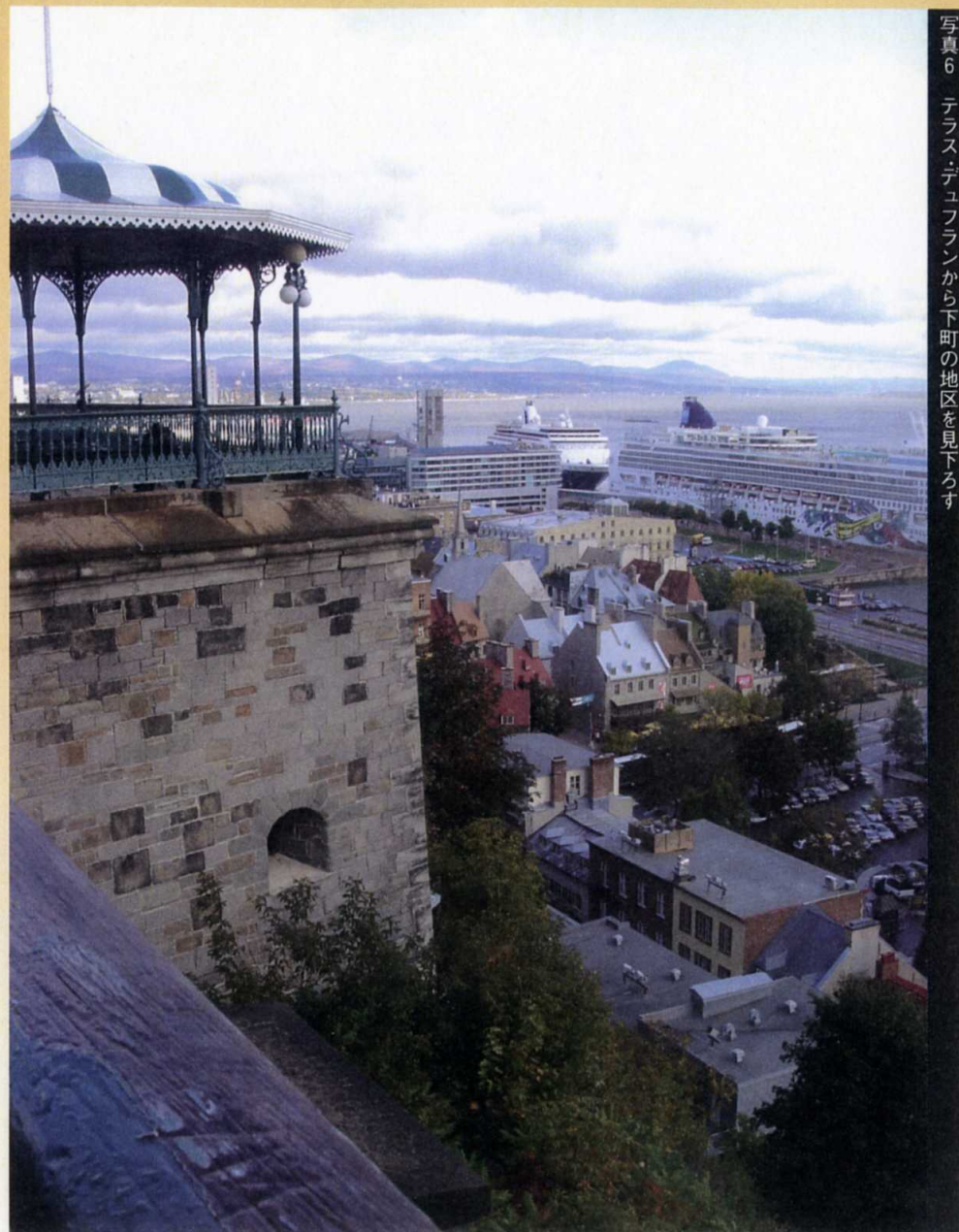


写真6 テラス・デュフランから下町の地区を見下ろす

ランが毛皮貿易の基地を建設したこ  
とから始まっている。南の海岸線に  
広がる英国植民地との摩擦を避け、

北のこの地を交易港に選んだに違  
ない。つまり、ケベックは最初は軍  
事拠点としての有利さよりも港とし  
ての利便さから選ばれたのだと考え  
られる。  
幅員の狭い路地はいまではすっか

り観光地となってしまっているが、  
かつての小さな貿易拠点の雰囲気  
を見出すことは困難ではない（写真7  
〜9）。とりわけロワイヤル広場周  
辺はケベック発祥の地であり、同時  
に北米で17、18世紀の建築物が一番  
多く集中している地区である（写真  
10）。北米でもっともヨーロッパを  
感じさせる場所だといえることができ  
る。

\*\*\*\*\*

ケベック旧市街の歴史地区135  
haは1985年、北米初の歴史都市  
として世界文化遺産に登録されてい  
る。イコモスの評価書はケベックを  
評して次のように述べている。「ケ  
ベック歴史地区は……北米で他の追  
随をゆるさない最も完全な城砦を持  
つ植民都市の傑出した事例である」  
さらに続けて、「ヌーヴェル・フラ  
ンスのかつての首都として、ケベッ  
クは近現代におけるアメリカ大陸の  
全住民とその拡大の主要な過程のひ  
とつを示している」  
しかし、その後のケベックの歴史  
を見ると、都市保全が容易なこと





写真9 下町(Sault-au-Matelo)通り



写真10 下町にある、北米でもっとも古い広場と言われるロワイヤル広場。正面は勝利のノートルダム教会

●参考文献

- 1 Serge Bernier et.al., Military History of Quebec city 1608-2008, Art Global, 2008
- 2 Christian Blais et.al., Québec : quatre siècles d'une capitale, les publications du Québec, 2008

はないことがわかる。ケベックの港は常に大型船が係留できるように拡大したいという願望に抗いがたいし、一大観光都市としてのケベックは常に大型宿泊施設建設の誘惑にさらされている。2008年、当地で

開催されたイコモスの総会において、ケベックの歴史地区とその周辺を厳しい開発圧力から守るべきであるという勧告が採択されている。都市を保全する努力は今も続けられているのである。